

# **第8回 台東区子供歴史・文化検定 解答と解説（小学生用）**

解説文の最後に、参考として『台東区歴史・文化テキスト 改訂版』の頁数を掲載しています。

平成29年度 台東区教育委員会

問1.

解答 ア

解説 浅草寺の始まりは628(推古天皇36)年、檜前浜成、竹成の兄弟が、隅田川から仏像を網ですくいあげ、土地の有力者であった土師中知がその仏像を観音像と判断して、まつたことといわれています。

(12頁)

天海僧正は1625(寛永2)年に上野の山に寛永寺を建てました。

(16頁)

問2.

解答 ア

解説 江戸幕府は1620(元和6)年に浅草に米蔵をつくり、そのため地名が浅草蔵前になりました。各地から船で運ばれた荷物を降ろすための船着場が整備され、1724(享保9)年には、109軒の米の取引業者により株仲間がつくられ、江戸の経済の中心地の一つとなりました。

(15頁)

問3.

解答 ウ

解説 徳川慶喜は武力衝突を避けるため大政奉還を行いました。戊辰戦争が始まってしまいました。慶喜は状況を判断し、上野寛永寺大慈院に謹慎しました。(24頁)

問4.

解答 エ

解説 1947(昭和22)年に区の合併がおこなわれ、文京区や墨田区などが誕生しました。台東区は下谷区と浅草区が合併しました。(34頁)

問5.

解答 イ

解説 上野台周辺を支配していた豪族の墓と考えられている大型の前方後円墳は摺鉢山古墳です。そのまわりの小型の円墳からは鉄製の太刀や埴輪などが発見されています。(10頁)

問6.

解答 ア

解説 武蔵野台地には、海などの侵食によって多くの細長くなった台地が削りだされています。上野台はその東の端にあたります。(8頁)

問7.

解答 ウ

解説 初代、3代将軍は日光山に、4、5、8、10、11、13代将軍は寛永寺に、2、6、7、9、12、14代将軍は増上寺に、15代将軍は、谷中の寛永寺墓地にお墓があります。(19頁)

問8.

解答 ア

解説 徳川慶喜が寛永寺に謹慎したことによって、彰義隊も上野の山に立てこもりました。しかし、5月15日、官軍の総攻撃を受けてわずか半日で敗れ去りました。(23頁)

問9.

解答 ウ

解説 山岡鉄舟は、幕末の三舟と呼ばれる幕臣のうちの1人で、高橋泥舟に頼まれて西郷との会談にのぞみました。これが成功して後の江戸城無血開城への道が開かれたのです。(24頁)

問10.

解答 ア

解説 富士山のほか、1792（寛政4）年に噴火した雲仙普賢岳や、現在も噴火を繰り返している浅間山や阿蘇山、桜島なども大きな被害を出しています。また、富士山の噴火では、江戸の町に大量の火山灰が降ったという記録があり、いかに大きな噴火だったかがわかります。（53頁）

問11.

解答 ウ

解説 寛永寺の「時の鐘」は大仏の正面に設置されています。現在でも1日3回、朝夕6時と正午に時刻を告げています。浅草寺の「時の鐘」は弁天山に設置されて、1日1回朝6時に鳴らされています。（54頁）

問12.

解答 イ

解説 長屋は横長の建物を壁で仕切り、カマドをおく台所のある土間と4畳半の板敷きの部屋がありました。便所（トイレ）や井戸は共同でした。（38頁）

問13.

解答 イ

解説 読売という名前は、街の中を内容を読みながら売り歩いたことに由来します。（55頁）

問14.

解答 イ

解説 伝統的な技能を無形文化財・生活文化財に指定する制度は台東区だけにあるものです。（60頁）

問15.

解答 イ

解説 <sup>ひすまひきて</sup>襦引手作りは、2008（平成20）年に生活文化財に指定されました。引手とは、襦を開け閉めするときに手をかける部分のことをいい、<sup>ほりぐちせいさくじょ</sup>堀口製作所を<sup>けいえい</sup>経営する<sup>ほりぐちひろし</sup>堀口宏さんが襦引手作りを受け継いでいます。（60頁）

※襦とは、木などでできた骨組みの両面に紙や布を張ったもので、それに引手を付けたものです。和室の仕切りなどに使われます。

問16.

解答 ウ

解説 江戸時代の初め、隅田川<sup>えんがん</sup>の沿岸では焼き物を焼くことが行われており、今戸でも素焼きの土器が焼かれていました。<sup>めいれき</sup>明暦の<sup>たいか</sup>大火で江戸のあちこちから焼き物を焼く職人が集まってきたため、今戸焼も1つのブランドとして有名になりました。（60頁）

問17.

解答 イ

解説 区内では1883（明治16）年に上野駅が開業し、上野～熊谷間が開通しました。（64頁）

問18.

解答 ア

解説 台東区では路線バスの廃止や公共交通の整備されていない地域のため、2001（平成13）年から循環バス「めぐりん」の運行を始めました。（66頁）

問19.

解答 ウ

解説 鎌倉時代、台東区には現在の江戸通りに沿って区内を北上し、東北地方に向かってのびている「<sup>しもつみち</sup>下道」が通っていました。江戸時代になるとこの道は奥州街道の一部として使われました。(67頁)

問20.

解答 ウ

解説 大正通りは都内では、墨田区の東向島や吉祥寺にもありますが、区内には通っていません。(68頁)

問21.

解答 イ

解説 江戸時代の人々の<sup>いどうしゆだん</sup>移動手段は<sup>いっばんてき</sup>一般的には徒歩でした。明治時代に入ってから<sup>のりあいばしゃ</sup>乗合馬車が走り始めましたが、乗り心地がとても悪かったようで、路面に線路を引いた鉄道馬車が運行されるようになりました。(64頁)

問22.

解答 エ

解説 区内の北側には<sup>たんぼ</sup>田圃と呼ばれる<sup>こうさくち</sup>耕作地があちこちにありました。そのうちの1つが千束田圃です。(79頁)

問23.

解答 ウ

解説 広小路はもともと繁華街であったところにつくられました。浅草寺や寛永寺の山下、江戸橋などは<sup>にぎ</sup>賑やかな繁華街でした。(80頁)

問24.

解答 ウ

解説 七福神とは恵比須、大黒天、毘沙門天、弁財天、福祿寿、布袋、寿老人をいいます。(88頁)

問25.

解答 ウ

解説 江戸時代、三社権現社(浅草神社)の正月行事でもあった流鏝馬は、一時期途絶えていましたが、1983(昭和53)年より観光行事として復活して隅田公園で行われています。(91頁)

問26.

解答 ウ

解説 明治時代に盛んだった朝顔市は、1913(大正)年に途絶えましたが、1948(昭和23)年に復活し、入谷鬼子母神(真源寺)境内を中心に朝顔を売る店が立ち並んで昼夜賑わっています。(94頁)

問27.

解答 エ

解説 江戸時代の両国の川開きに由来をもつ花火大会で、戦争などの事情で中断していたものを、1978(昭和53)年に隅田川花火大会の名で場所を変えて復活させたものです。毎年7月の最終土曜日に行われ、当日は見物の人々で両岸や橋の上が賑わいます。(94頁)

問28.

解答 エ

解説 亡者送りの松明の燃え殻は、厄除け(災い除け)になるといって捨てる人が多くいます。(89頁)

問29.

解答 ウ

解説 円朝は江戸落語中興ちゅうこうの祖そといわれ、自作の落語で人気を得ました。彼は伝統的な落語に明治の新しい形を取りいれました。(95頁)

問30.

解答 イ

解説 清水観音堂の本尊に向かって右手にまつられる子育こそだて観音には、子供を授かった人々がお礼に人形を納める風習があります。そこで9月25日に法要を行い、人形のお焚たき上げをします。(95頁)

問31.

解答 エ

解説 江戸時代えどじだいには、かっぱ橋道具街通りしんぼりかわを新堀川が流れていました。江戸時代にはかっぱの姿を見ると、喜八のように商売がうまくいくと言われ、かっぱは商売繁盛の神様とされました。(101頁)

問32.

解答 ア

解説 1591(天正15)年ころは、豊臣秀吉とよみひでよしらが活躍していた安土桃山時代あづちももやまですが、玉林寺ぎょくりんじのシイはそれよりも前にあったと言われています。シイの木が年老いて大分弱ってきたこともあり、樹木医じゅもくいにより手入れされ、少しずつ元気になって、今も雄姿ゆうしを見せています。(102頁)



問33.

解答 ウ

解説 おのてるさきじんじや 小野照崎神社には、日本最古の学校とあしかかがっこう と言われる足利学校をつくったと伝えられるおののたかむら 小野篁がまつられています。かんとうだいしんさい 関東大震災や第2次世界大戦のひがい 被害にもあわず、1866（けいおう 慶応2）年に建てられたしやでん 社殿がそのまま残っています。（109頁）

問34.

解答 エ

解説 1923（大正12）年、関東大震災で焼失しましたが、第2次世界大戦のくうしゅう 空襲の際にはまったくそんしょう 損傷がありませんでした。第2次世界大戦より前の1934（昭和9）年に建て替えられています。その時に日本画の巨匠よこやまたいかん 横山大観によってえが 描かれたてんじょう えりゅう 天井絵「龍」が神社を火事から守ったと言われています。（110頁）

問35.

解答 イ

解説 東京には5つの目の色をしたごしき 五色不動があり、五色とは目白・目赤・目黒・目青・目黄の各不動のことです。現在の目白（豊島区）・目黒（目黒区）の地名は、この五色不動にちなんだものです。（107頁）

問36.

解答 エ

解説 江戸時代後期に多く輸入、ほんやく 翻訳された洋書は、主にオランダ（和蘭）から輸入され、オランダ語で書かれた書物でした。また、浅草橋には幕府の研究機関であったてんもんがた 天文方やばんしよ わげ ごよう 翻訳機関の蕃書和解御用が置かれていたため、多くの学者が集まってきました。（114頁）

問37.

解答 ウ

解説 地域ごとに田畑・山林・屋敷などを色や文字で区切った地図を切絵図と  
いいます。切絵図の文字の向きは、表門のある方向を表しています。  
(125頁)

問38.

解答 ウ

解説 <sup>なかむらふせつ</sup>中村不折は書道博物館を開館した人物であり、博物館には書をはじめ、  
不折が書道研究のために集めた中国<sup>およ</sup>及び日本の書道に関する資料、考古  
出土品<sup>しゅつどひん</sup>など、重要文化財12点、重要美術品<sup>びじゅつひん</sup>5点を含む1万点以上が所蔵<sup>しょぞう</sup>  
されています。(162頁)

問39.

解答 ウ

解説 <sup>たけはし</sup>高橋泥舟は幕末の三舟<sup>さんしゅう</sup>と呼ばれる幕臣のうちの1人です。誠実な<sup>ひとがら</sup>人柄  
であったと伝えられています。(24頁)

問40.

解答 イ

解説 泰平とは世の中が穏やかなことを指す言葉であって、人の名前ではありません。(134頁)

問41.

解答 工

解説 上野公園は、国家的な行事である「内国勸業博覧会」をはじめとする大きな行事の開催地として活用され、精養軒はそのたびごとにレセプション会場や洋楽のコンサート会場、舞踏会の会場として使われました。こういったことから、上野公園が明治政府の欧化政策のシンボルとして使われてきたことがわかります。(140頁)

問42.

解答 工

解説 明治時代初めには国産の自転車がつくられ、売られるようになりました。1898(明治31)年11月6日に大日本双輪クラブ主催の日本で初めての自転車競技が不忍池を回るコースで行われました。当時の自転車は大変高価な乗り物で、貴族や財閥がスポンサーとなり選手たちを応援していました。(147頁)

問43.

解答 工

解説 大正時代中期の道路には、市内電車、乗合自動車、一般の自動車などが行きかい、交通量は増加していきました。人力車や荷車に代わって電車や自動車、自転車が主な乗り物となり、人と物を運ぶスピードも増して、交通信号の必要も生まれたのです。(153頁)

問44.

解答 ア

解説 上野公園は日本最初の公園として、1876（明治9）年5月に開園しましたが、式典後のレセプションの会場に困った大久保利通（内務卿）は岩倉具視と相談して、岩倉の知り合いであった精養軒に上野への出店を依頼したのです。こうして上野精養軒は1876（明治9）年4月に現在地にオープンしました。（140頁）

問45.

解答 ウ

解説 縄文土器の展示施設としては、区内には、生涯学習センター3階「台東区の遺跡 展示コーナー」（台東区西浅草3-25-16）等があります。この機会に、是非ご覧ください。（159頁）

問46.

解答 ウ

解説 茅とは屋根を葺く草の総称です。茅の材料には、すすき等のイネ科の多年草が使われます。旧吉田屋酒店は瓦葺屋根です。

旧吉田屋酒店は1910（明治43）年に建てられました。明治時代の商家の特徴を持つ貴重な建物です。1986（昭和61）年に谷中6丁目から今の場所に移築し、区指定有形民俗文化財として保存されています。（160頁）

問47.

解答 エ

解説 中村不折は1915（大正4）年から亡くなるまでの30年間、この根岸の地に住んでいました。不折は森鷗外や正岡子規らとの親交が深く、夏目漱石の『吾輩ハ猫デアル』など装丁画も描いています。（162頁）

問48.

解答 工

解説 <sup>まさおかしき</sup>正岡子規（1867～1902）は、1894（明治27）年から1902（明治35）年に35年の<sup>しょうがい</sup>生涯を終えるまで、根岸に住み、たくさんの<sup>はいく</sup>俳句や短歌をつくりました。もともと子規が住んでいた建物は東京大空襲で焼失してしまいましたが、家を建て直して公開しているものが、子規庵です。（166頁）

問49.

解答 ア

解説 <sup>れんれんさい</sup>連々斎が、<sup>かんだ</sup>神田にあった茶室を1869（明治2）年に池之端の<sup>ふしんち</sup>不忍池北東側に移築したのが一円庵です。入り口は多くの<sup>じゅもく</sup>樹木に囲まれて、ひっそりとした美しさがあります。1962（昭和37）年に都有形文化財の指定を受けました。（<sup>ひこうかい</sup>非公開）（166頁）  
天佑庵は、浅草寺の<sup>でんぼういん</sup>伝法院の庭の中にあり、京都の<sup>ふしんあん</sup>不審庵にならってつくられました。（167頁）

問50.

解答 工

解説 江戸下町工芸館（ギャラリー<sup>たくみ</sup>匠）では、手作りの伝統工芸品が400点近くも<sup>てんじ</sup>展示されています。（158頁）

MEMO